俺とエルフと遊戯王

楓

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
俺とエルフと遊戯王

【Ｎコード】
Ｎ７９６７Ｚ

【作者名】
楓

【あらすじ】
俺、藤原三笠は遊戯王の世界に転生した。
そこで俺と神様（エルフの剣士）とのデュエルアカデミアの生活が始まる

転生

突然な質問だが、皆は『転生』と言うのは知っているだろうか？

二次小説なんかでよくある突然神と名乗る人物が現れて、
「突然ですが、あなたは死にました。」とか言ってきて別世界へ送るあの転生だ。

そしてこの俺、箕浦楓はそれを実体験したばっかりだ。

現在俺は新しい両親に見られながら
絶賛赤ちゃんタイム・・もといミルクを飲んでいる真っ最中だ。

（まじであの青年の話が本当だったとは夢にも思わんかった・・・）

・・・数時間前・・・

「突然ですが、あなたは死にました。」

「・・・・え？」

これが俺と青年の最初の出会いだった

「・・・悪い、少年。どうやら俺の耳がおかしくなったらしい・・・
今「死んだ」と聞こえたんだが？　もう一回言ってくれるか？」

「その年で耳が悪いのですか？もう一度いいますが・・・
あなた様は死にました。
それとあなた様に言われるほど年は若くありません、
今年で３００ですから。」

・・・前言撤回じじいだ。

「今から説明しますがその握りこぶしを退かしてくれませんか？少し邪魔なので。」

いつの間にかこの青年・・もといジジイを殴ろうとしてたようだ。

～～説明中・・しばし待たれよ～～

「つまり、俺を担当をしていた見習いの神様がミスをして俺が死んでしまったと？
で、生き返らせることはできないから、そのお詫びに違う世界へ転生さ　せてやろうというわけだな？」

「まぁ、そんな感じでございますね・・・ちなみに転生させる世界は決まっております。
あなた様の好きな『遊戯王ＧＸ』の世界です！うれしいですか？」

語尾が変わった気がするのは気のせいだろう。

「っていいわけあるかぁ！
あんな死亡フラグビンビンのところいきたくないわぁ！」

それに遊城十代みたいな熱いキャラ嫌いだし
５Ｄｓならいい気がするがあんなスラム街いやだぁ。

「ですが決まったことですので、あ！死後の世界つまり天国ならいけますよじゃあ今から上の神様に連絡しますね」

「まってくれ、いや・・・まってください行きます。ＧＸの世界いきますから！」

死ぬのだけはごめんだ。

「畏まりました」

「んでなんか特典みたいなものはあるのか？」

「・・・・遊戯王の世界にチートな身体能力があっても意味がないと思いますが・・・・リアルダイレクトアタックでもするのでしょうか？」

※リアルダイレクトアタックとはデュエルで物事を解決する遊戯王の世界であえて腕力や暴力で物事を解決する人の事だよ？

「いわれてみればそうだな・・・・じゃあカードくれ！大量のカード！」

「畏まりました、あの世界ならカードは多くても困りませんからね。・・・・ではあなた様がデュエルアカデミアに入学する1週間前にお送りいたします。」

「よろしくな。」

「では、また後程会いましょう。」

「ちょっとまてそれはどういう・・・・」

俺が言い終わる前に俺の足元の床が無くなった

「だぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！！！！！！」

・・・回想終わって現在・・・

…思い出したら腹立ってきた…しかし転生って言うだけあるな、まさか赤ん坊からやり直しとは……

両親と思われる男女がしきりに俺の名前を呼んでいる

はぁ…遊戯王か…嬉しいような悲しいような…

こうして俺の第２の人生が始まった。

１２歳〜〜デュエルアカデミア初等部６年〜〜（前書き）

あけましておめでとうございます

１２歳〜〜デュエルアカデミア初等部６年〜〜

こんにちはみなさん藤原三笠です。
しかしこの世界では名前が変わって箕浦楓です。
この名前だと女だと間違えやすいですが、男です。

ところでデュエルアカデミア初等部って知ってるかな？
初等部とは小学校のことです。
俺は今、そこの６年生だ。
付け足すと５Ｄｓでいう龍亞たちがいっていたところだ。
・・・といっても見た目はごく普通の小学校。

「「お〜い楓ぇ〜〜考え事してないでこっちこいよー」」

そう声を張り上げているんのは桑原潤と二階堂寛・・・まったく煩いたらありゃしない

「あー行くって、まったく煩い」

二人が呼んだ先には高橋秀行と山口康弘が喧嘩していた。

「君はねぇもっとバランスあるデッキを使わないと話にならないよ〜」

「・・・・」

「ほらデッキ見せてよぼくが診断してあげるからさ〜」

「・・・本を読んでるんだからジャマしないでよ」

ちなみに無口な方が山口康弘で語尾が〜なやつな方が高橋秀行だ。

「あ！楓くん君からも言ってあげてよ〜」

やばいこっちにまで火花が飛んできた。

「康弘！屋上いくぞ」

「んーめんどくさいけどこの場から離れられるならいいかな」

～～屋上～～

「まったく、助ける俺の身にもなってくれよ」

こうなったのは今回ばかりじゃなくだいたい週1程度に起こることだ。

「別に僕は助けを求めてないけどね」

・・・当の本人がこれだから卒業するまでは同じ状態だろうか？

「ところでその本続編出たんだね」

康弘が持っているのは遊戯王の遊戯さんたちの二次小説・・かなり人気のあるものだ。

「君たち逃がさないっよ～」

そうしてきたのは高橋、潤、二階堂の三人だ。

「別に高橋もそんなに康弘のデッキを変えようとしなくてもいいんじゃないのか？」

「いいや楓君、彼のデッキを強くするのは学級委員の仕事だからね～」

きっぱり答える高橋、しかしそれは学級委員の仕事なのか？

「なら楓と君とでデュエルして勝ったら話を聞いてあげてもいいかな」

デュエル脳には困ったものだ。というかなぜそう偉そうに言うんだ？

「分かったよ～なら楓君、バトルフィールドにいこうか～」

バトルフィールドとは体育館のようなところでこの学校に一つしかないソリットビジョンがあるところだ。

～～バトルフィールド～～

「じゃあ始めようか～」

「「デュエル！！」」

turn1
高橋：４０００
手札：５
楓　：４０００
手札：５

「私のターン～！」

「私はエーリアンウォーリアーを召喚するよ～」

エーリアンウォーリアー星４／地属性／爬虫類族／攻１８００／守１０００

「ターンエンド！～」

ｔｕｒｎ２
高橋：４０００
手札：５
楓　：４０００
手札：５

「俺のターン・・・」

「シャインエンジェル召喚」

星４／光属性／天使族／攻１４００／守　８００

「カードセットを一枚セット・・ターンエンドだ」

ｔｕｒｎ３
高橋：４０００
手札：５

楓　：４０００
手札；４
セット：１

「ドロ～」

「私はそのままエーリアンウォーリアーで攻撃」

楓；４０００→３６００

「シャインエンジェルは戦闘で破壊されたときデッキから光属性、１５００以下のモンスターを
表側攻撃表示で特殊召喚できる。俺はクィーンズナイトを特殊召喚する」

星４／光属性／戦士族／攻１５００／守１６００

「ターンエンド～」

ｔｕｒｎ４
高橋：４０００
手札；６
楓　：３６００
手札：４
セット：１

「俺のターンだ、ドロー」

「キングズナイトを通常召喚、さらにキングズナイトの効果を発動
自分フィールド上にクィーンズナイトが存在する場合にこのカードが召喚に成功した時、
デッキからジャックスナイト１体を特殊召喚する事ができる」

「ジャックスナイト・・特殊召喚」

キングスナイト：星４／光属性／戦士族／攻１６００／守１４００
ジャックスナイト；星５／光属性／戦士族／攻１９００／守１０００

「さらに融合を発動する、俺は絵札の三銃士を融合素材にし、俺は
アルカナナイトジョーカーを
融合召喚！」

星９／光属性／戦士族／攻３８００／守２５００

「いけ、アルカナナイトジョーカー！」

高橋：４０００→２０００

「ターンエンド」

ｔｕｒｎ５
高橋：２０００
手札；６
楓　：３６００
手札：２
セット：１

「うーんやるねぇ～ドロー！」

「私は手札から侵食細胞「Ａ」を発動！
アルカナナイトジョーカーにＡカウンターを１つのせるよ～」

「さらに強者の苦痛を発動！
このカードは相手のモンスターのレベルの数×１００攻撃力を減少させるよ～」

ナイトジョーカー：３８００→３０００

「惑星からのの物体Ａを攻撃表示で召喚！」
星１／光属性／爬虫類族／攻　０／守　５００

「カードを２枚セットしてターンエンド～！」

ｔｕｒｎ６
高橋：２０００
手札；１
セット；２

強者の苦痛：１
楓　：３６００
手札：２
セット：１

「俺のターン・・・ドロー！」

「ここで洗脳光線を発動するよ～」

「このカードはＡカウンターの乗ったカードのコントロールを得るよ～」

俺の場から高橋の場に行くナイトジョーカー・・歩いていくんだね。
洗脳光線がもし永続罠でなければ効果を無効にしてたんだがな・・・

「モンスターをセット・・・ターン・・エンドだ」

ｔｕｒｎ７
高橋：２０００
手札；１
セット；２
強者の苦痛：１
楓　：３６００
手札：２
セット：１

「ふふっナイトジョーカーを取られては何もできまい！俺のターン！！」

お前一人称、私だよね？

「バトルフェイズだ！いけ！ナイトジョーカー！」

「攻撃されたモンスターはＥ・ＨＥＲＯオーシャンだそのまま墓地に行く」

「ははははは！ターンエンドだ！」

ターンエンド時に俺の場に帰ってくるナイトジョーカー。

「な、何故貴様の場に帰っていくのだ！？」

「ふぅ・・・お前の洗脳光線の効果だ馬鹿が、自分のカードの効果ぐらい覚えておけよ」

「・・・お前のエンドフェイズ時毎に、
コントロールを得たモンスターのＡカウンターを１つ取り除くそしてなくなったら
コントロールを返す・・・
」

そう言ったのは康弘、お前いいとこだけ取ってくなぁ、おい。

「俺のターンだ。」

「いけアルカナナイトジョーカー！Ａｒｃａｎａｂｒｅａｋ！」

高橋：２０００→０

高橋のライフポイントが０になると同時に高橋が膝をつきソリッドビジョンが消える。

「はは私の負けだよ楓君」

・・・一人称が私に戻ってるね。

〜〜帰り道〜〜

「・・・一応助けてくれたから霊をあげよう」

「は?！礼の漢字が霊に変換されてると思うのは気のせいかな?」

「うん、多分きっとそう」

「ＴＦの主人公みたいな答え方するなよ（（ボソッ」

１２歳～～デュエルアカデミア初等部６年～～（後書き）

主人公は絵札の三銃士デッキをつかいます
（多分次回は変わると思いますが）

今回の登場キャラはＴＦ３の方々ですね。
最後の康弘との会話の「うん、多分きっとそう」は
ＴＦ６の宮田ゆまとの会話であるやつです。

潤と二階堂が空気・・・・（ボソッ

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7967z/

俺とエルフと遊戯王

2012年1月6日01時46分発行